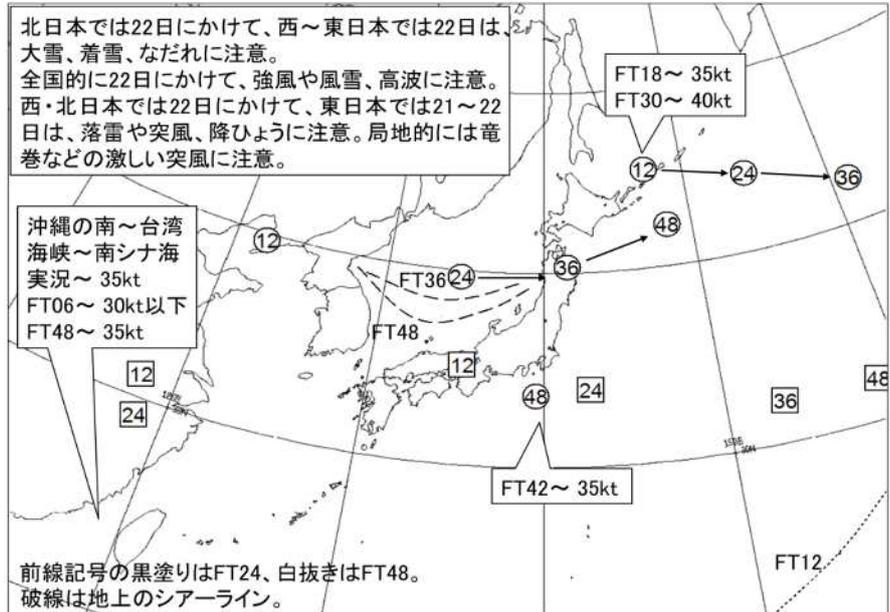


1. 実況上の着目点

- ① 日本付近は冬型の気圧配置となっている。東～北日本の日本海側では3時間に5cm前後の降雪の所がある。また、気圧の傾きが大きくなっており、北日本を中心にやや強い風が吹き、全国的に波が高くしけとなっている所がある。
- ② 沿海州には500hPa5100m以下の-39℃以下の寒気を伴った寒冷渦があって、南東進。
- ③ モンゴルには500hPa5340m以下の-36℃以下の寒気を伴った寒冷渦があって、南東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 20日は、高気圧が本州付近を東へ移動。冬型の気圧配置は弱まるが、1項②の寒冷渦に対応した低気圧がオホーツク海を東南東進し、北海道地方には、850hPa-15℃以下、700hPa-27℃以下の寒気が流入し、大雪となる所がある。北海道地方では20日は、大雪による交通障害、なだれに注意。
- ② 1項③の寒冷渦はトラフとなって、21日夜には西日本へ進む。トラフに対応して、20日夜までに低気圧が日本海で発生し、21日に東北地方を通過する。低気圧が通過する東北地方では、大雪となる所がある。東北地方では21日は、大雪による交通障害、着雪やなだれに注意。
- ③ 21日に四国の南で低気圧が発生し、22日は発達しながら日本の東を北東進、日本付近は冬型の気圧配置が強まる。西日本には850hPa-6℃以下、東～北日本には700hPa-21℃以下の強い寒気が流入し、大雪となる所がある。西～北日本では22日は、大雪による交通障害、着雪やなだれに注意。
- ④ 21～22日は日本海に地上のシアーラインが形成し、21日は東北日本海側を、22日は西日本日本海側を指向する。このシアーライン周辺と2項②と③の低気圧の周辺では下層暖湿気と上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。西・北日本では22日にかけて、東日本では21～22日は、落雷や突風、降ひょうに注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ⑤ 2項①～③の低気圧と2項④のシアーライン、及び冬型の気圧配置により、22日にかけて気圧の傾きが大きくなり、強い風や局地的には非常に強い風が吹き、波が高くなりしけとなる所がある。南西諸島と東～北日本では22日にかけて、西日本では21～22日は強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

② 降雪量(06時からの24時間)：北海道40cm。③ 波浪(明日まで)：広い範囲で3m。

④ 高潮(明日まで)：東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定はない。